令和４年度 探究フォーラム実践発表　　東京都立 足立西 高等学校

「ミニ探究から始まったカリキュラム・マネジメント」

＃全日制普通科　＃来年度創立 50 周年　＃１学年５学級の小規模校（教員 40 名）＃海外学校間交流推進校　＃防災教育研究指定校　＃地域密着型　＃校章五色桜

1　はじめに　～ たんきゅう？　やってみよう ～

夏休み、１学年が 12 月に学年行事「上野動物園校外学習」を計画、学習の機会をよりよいものにするため「上野動物園×探究」にレベルアップ!!」初めての探究学習は、まだまだ試行錯誤、みんなで模索中です。

2　組織作り　～新カリに向けた準備はダレがやる!?～

本校の委員会は以下のように構成されてきた。

平成 29～令和３年度	令和４年度～
「人間と社会」推進委員会 キャリア教育連絡会	「人間と社会」推進委員会　５名 キャリア教育委員会　８名
	▶10 月～ 探究委員会　７名 ▶11 月～ 進路探究委員会　14 名

「委員会は作った」では、進まないカリキュラム・マネジメント。
令和２年度に校長・副校長が変わり、令和４年度にも学校長・副校長が変わった。組織改編だけで、学校は変わらない。
「探究」はどうやって、始まったのか!?　始められたのか!?

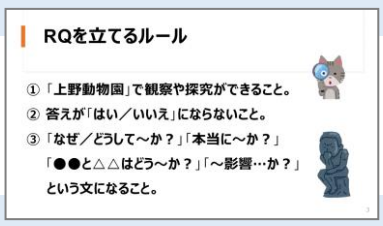
★取組★　令和４年度「探究的な学び推進事業」の追加募集に応募
探究アドバイザーの活用（外部人材の活用）TEPRO 等

3　探究のプロセスの工夫　～モヤモヤからワクワクへ～

１学年では４人１組のグループ探究、ワークシートとタブレット端末を使用している。探究のプロセス（課題設定、情報収集、整理・分析、まとめ・表現）の中で、最も重要だと考えているのは**課題設定**である。課題が曖昧なもので学習を開始すると、その後の過程や結論においても中途半端なものになると考えた。そこで、課題の質を上げるために「課題設定と情報収集・共有」を３サイクル行った。また、課題設定、情報収集における注意点を教員間で共有することで、指導の一貫性を保った。さらに、生徒が多角的に考えられること、教員の負担を軽減することのために、探究アドバイザーとして大学生・大学院生・社会人を募集し活用した（12 名 100 時間）。

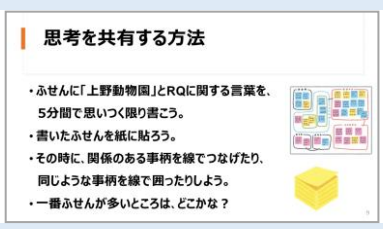
❖課題設定における注意点

① 答えが「Yes / No」にならないこと。
② 調べたらすぐに分かることを避ける。
③ マジックワードを言い換える。



❖情報収集・共有における注意点

① 検索ワードを書いて残す。
② 収集した情報は班で共有する。
③ 新しく知ったことを書く。
④ 活動の中で困ったことを書く。



❖授業の際に教員間で統一していること

① 生徒の意見を否定しない。
② 意見ではなく案を提示する。

12 月 16 日に上野動物園のフィールドワークを控え、実際に行かないと分からないことを課題にできるよう、現在も探究学習を行っている。

4　これまで苦労したこと　～ 考える タネにする ～

【1】探究学習の学校テーマを決める

今回は学年行事が先にあり、探究学習を組み込んだ。次年度以降は、３年計画で探究を行うスケジュールだけでなく、学校独自のテーマを設定し、探究学習の経験が進路活動につながるようにしたいと考えている。

【2】スマスク端末の利用

2022 年度入学生はタブレット端末を持っている。探究学習においてもタブレット端末を利用することで、効率化を図ろうと指導した（Teams 上でプレゼンテーションソフトを用いた課題を配信し、共同編集する活動）。

しかし、タブレット端末の操作に関する説明が多くなり、探究学習に支障をきたすことがあった。タブレット端末の様々な機能を扱えるような授業課題や計画的なガイダンス、ワークショップも考えなければならない。

【3】未知の体験　～教員こそ探究の経験が必要～

探究学習を指導する中で、最も困ったのは**未知の体験**ということだ。

生徒たちの考える**課題（リサーチクエスチョン）**に対して、どのような声掛けをすればよいのか迷い、探っている状態が見られた。授業を重ねているなかで、生徒の成長に繋がっているという実感が得られない。探究学習を１サイクル終えることで、学びの到達度を確認したい。

5　探究的な学びの指導体制　～少数精鋭スピード感～

【1】学校内の組織

探究委員会を設立し週１回の会議の中で、教材や授業の進度、生徒の様子を共有している。
※管理職、進路指導部主任、１年担任２名、
２年担任１名（総合学科出身）、指導教諭

【2】授業内の組織

生徒：４人１組で構成
教員：担任・副担任
　　アドバイザー（1～2 名）

授業の 7～8 割の時間は生徒による活動としている。活動中は、教員が巡回をし、生徒の活動が活発化するよう助言を行なっている。

パラダイムシフト

6　足立西の目指す探究　～やっぱり カリ・マネ～

今年度に実施しているのは、あくまで**ミニ探究**という位置付けである。

生徒だけでなく教員も探究を体験し、経験値を積むことを目的としている。次年度に向けて３年計画と、本校ならではの探究学習を考案中である。20 年以上続けているインターンシップや修学旅行と連動し、探究学習が生徒の成長だけでなく、地域貢献にも繋げていきたい。

11 月から委員会を再編成し、14 名規模の進路探究委員会がスタートした。**足立西高校で、「いつ、どんな力を、どのように身に付けるのか」、教科の垣根を越えた議論が始まろうとしている。**

1 学年では、「人間と社会」の代替履修届を提出し、週 1 時間「総合的な探究の時間」の授業を設置している。また、２、３学年でも週１時間「総合」の授業がある。